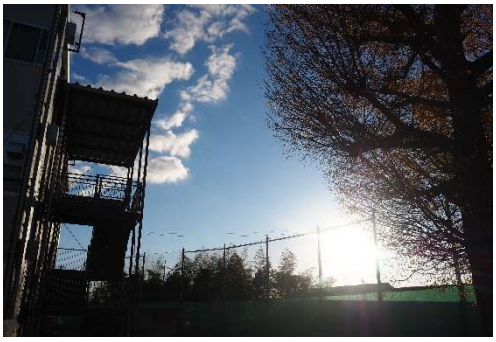
指扇小だより

教育目標　やり抜く子の育成
かしこく　やさしく　たくましく　あたたかく

令和８年１月８日　　第９号
さいたま市立指扇小学校
〒331-0078
さいたま市西区西大宮１丁目４９－６
電話 048-623-0133 FAX 048-624-2200
https://sashiogi-e.saitama-city.ed.jp

太陽の時間、月の時間

校長　小松　伸弘



冬休みが明け、校舎にも新しい年の静かな空気が満ち始めています。子どもたちの足取りには、寒さの中にも、どこか新しい一年を迎えたときの柔らかな緊張が感じられます。

私たちは一年の始まりを自然と一月一日と考えますが、実は世界にはさまざまな「はじまり」のかたちがあります。

例えば中国では、春節、つまり旧暦の元旦を一年の出発点として祝います。これは、月の満ち欠けをもとにした「太陰暦」に合わせているためで、元旦のカレンダー上の日付は毎年変わります。それでもなお旧暦の正月が大切にされているのは、人々の暮らしのリズムに月という存在が深く根付いているからでしょう。一方、現在のカレンダーは冬至や夏至といった太陽の動きを手がかりに作られています。「太陽暦」は、季節を読み、農作業の見通しを立てようとした人々の知恵の結晶でもあります。

太陽と月、どちらを基準にするかで、人々の時間の感じ方や生活の整え方が大きく変わっていきます。太陽の動きは季節を示し、長い見通しのもとで計画を立てるための目印となります。そして月の満ち欠けは、毎晩少しずつ姿を変えながら、日々の変化をそっと教えてくれます。どちらかが優れているわけではなく、どちらにも大切な役割があるのです。

この視点は、子どもたちと向き合うときにも大きなヒントになります。

私たち大人は、ともすれば長期的な予定や計画を基準に動く「太陽」のような存在になりがちです。しかし、子どもたちは、興味の高まりや気持ちの揺れに従いながら一日一日を生きています。月が満ち欠けを繰り返すように、子どもたちの心もまた、小さな変化を重ねながら成長しているのです。そのため、私たち大人の時間の物差しをそのまま当てはめると、その繊細な変化に気づき損ねてしまうことがあります。

大切なのは、太陽のように長い目で見通しをもちながら、月の満ち欠けのような日々の表情の移り変わりに気付けること。子どもが今どこに立ち、どんな気持ちで過ごしているかを想像することが、その子のリズムに寄り添う姿勢につながるように思います。

ところで、学校という場は、節目の行事といった「太陽の時間」と、子ども一人ひとりの小さな日々の揺れという「月の時間」が重なり合う場所です。太陽と月、両方の時間を大切にしながら、子どもたちが自ら成長を実感できる一年にしたいと願っています。

新しい年が、子どもたちの小さな満ち欠けを丁寧に受け止め、大切に育んでいける時間となりますように。本年もどうぞよろしくお願いいたします。